

かたりべ 74

豊島区立郷土資料館だより



謎のパノラマ絵図

上の写真は、一九二五（大正一四）年に刊行された「東武鉄道線路案内」という沿線案内絵図（山下徹氏所蔵）の一部分です。作者は、全国各地の鉄道や観光地のパノラマ絵図を描いたことで有名な吉田初三郎はつさぶろうです。この絵には東武東上線と東武伊勢崎線が描かれています。東武東上線は、現在の東武鉄道とは別会社の東上鉄道として、今からちょうど九〇年前の一九一四年に開業しましたが、開業五年後の一九一九年に東武鉄道と合併し、東武東上線となりました。

この絵図、よく見ると不思議なところがあります。「山の形がヘン?」「富士山が異常にデカイ?」。確かにそのとおりですが、それは初三郎の絵図の特徴です。その他には見つかりませんか?

そうです。東上線の上板橋から伊勢崎線の西新井までが点線で結ばれているのです。そればかりではありません。この写真には写っていませんが、終点の寄居よしかいから群馬県の高崎へも点線が延びています。

これらの「謎」は、来る七月二十八日から当館で開催予定の企画展「(仮称) えきぶくろの駅の誕生と街の形成」で明かされます。どうぞお楽しみに!

(伊藤)

収蔵展示室の展示替えを行いました

四月下旬から五月上旬にかけての臨時休館中に、当館では収蔵展示室部分の展示替えを行いました。五つのコーナーいずれも、区民の皆さまからご提供いただいた資料が中心になっています。本欄では、現在公開中の展示構成について、簡単に解説しておきたいと思えます。

☆ちよっとむかしの家電製品

このコーナーでは、一九五〇～七〇年代の家電製品を展示しています。今ではすっかり使わなくなってしまったもの、今も昔も基本性能や形態に変わりはないものなどさまざまです。写真パネルなどと合わせて、ちよっとむかしの豊島区の姿を振り返ってみてください。

●○おもな展示資料●○
白黒テレビ、カラーテレビ、真空管ラジオ、扇風機、アイロン、電気炊飯器など

☆豊島のものづくり

近年、伝統的といわれるものづくりの世界が注目されています。ここでは、未来に継承されるものづくりの心髄について、所蔵資料を通して考えていきます。

その第一弾として、豊島区に特徴的な職種・職人である組紐くみひもを取り上げました。

●○おもな展示資料●○
組紐コレクション

◎会期中、一部展示替えを行います。

☆むかしのくらし

このコーナーに展示してある資料は、かつて豊島区に居住した方が作ったり、あるいは使ったりしたものです。人々が毎日の生活を送っていくうえで、絶対に必要なものも含まれています。現在、これらの資料は、「むかしのくらし」を知るための資料として、学校教育の場でも注目されています。「ちよっとむかしの家電製品」コーナーでの展示資料と比較しながら見学していただくと、より理解しやすいかも知れません。

●○おもな展示資料●○
くし、かんざし、こうがい、枡、釜、おひつ、燭台、長火鉢、手習机、緋の着物

◎会期中、一部展示替えを行います。

☆戦中・戦後の区民生活

★学童疎開

第二次世界大戦の末期、国民学校（小

学校）の子供たちの疎開がおこなわれました。

疎開とは、アメリカ軍の日本空襲にそなえて、東京などの大都市から地方に移ることです。今回は、長野県の山田温泉に集団疎開した池袋第五国民学校を取り上げました。山田温泉では、一九四五年五月三〇日夜の大火で、八人の子供たちが亡くなってしまいました。この出来事にまつわる資料が展示してあります。

●○おもな展示資料●○
火事で亡くなった女子学童が書いた家族への手紙、事故に関わる書類

★ヤミ市からの出発

一九四五年八月の敗戦後、あらゆる物資が不足していたため、鉄道のターミナル駅付近に、次々にヤミ市（闇市）が開設されました。その商品は高価ではありましたが、食料や衣料品などの生活必需品を入手することができました。このコーナーでは、池袋のヤミ市に関連する資料や、生活必需品が不足していた頃に活躍した用具類を紹介しています。

●○おもな展示資料●○
復興商店街半纏はんてん、リュックサック、折りたたみ弁当箱

☆都電と豊島区

都内の道路が自動車で溢れるまで、都

電は、都民の足として活躍していました。

しかし、法改定によって車が軌道（路面電車の線路）内に入り入れられるようになると、車に進路を阻まれた都電は、速度が低下し、定時運行も困難になり、路上の「邪魔者」へとなっていきます。そして、整備が進められていた地下鉄に都市交通の主役の座を譲ることになったのです。ここでは、都電が東京の都市交通の中核だった頃の資料を展示しました。

●○おもな展示資料●○
運転系統板、側面板、都電・都バス案内

図 (秋山)



絵馬と奉納額に名を遺す―菓鴨・江山堂―

◆あつ！ 同じ名前！◆

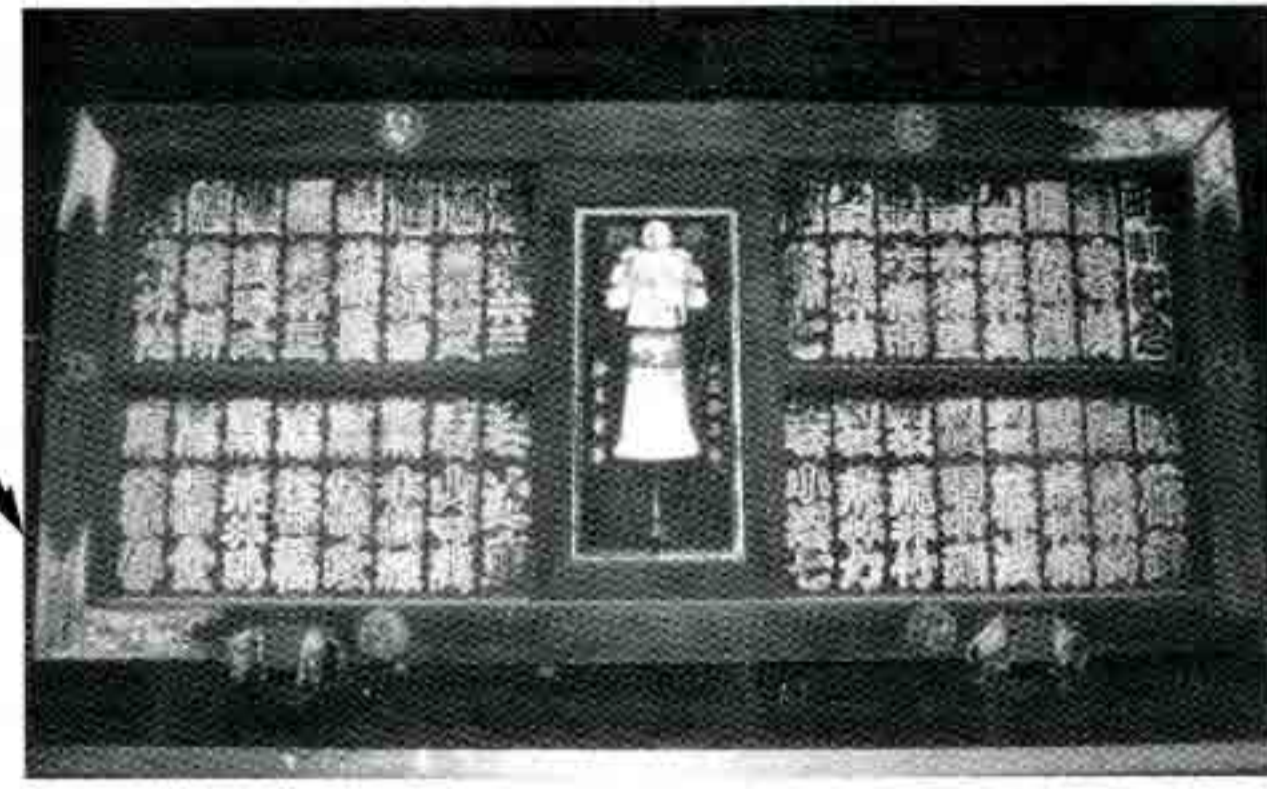
埼玉県和光市白子三丁目にある東明寺の本堂に入った時でした。多くの絵馬の中の一枚に目が止まりました。それは、下駄屋組合の二五名（豊島区内の人名はない）が明治二九年に奉納したもので、「菓鴨町画工江山堂」の製作であることが確認できました。一瞬、ここにもあつたかと嬉しくなりました。それは、長崎一丁目の長崎神社境内の絵馬堂に、大正一五年の町制施行を記念して地元消防組が奉納した額があり、それに「菓鴨江山堂作」とあるからなのです。



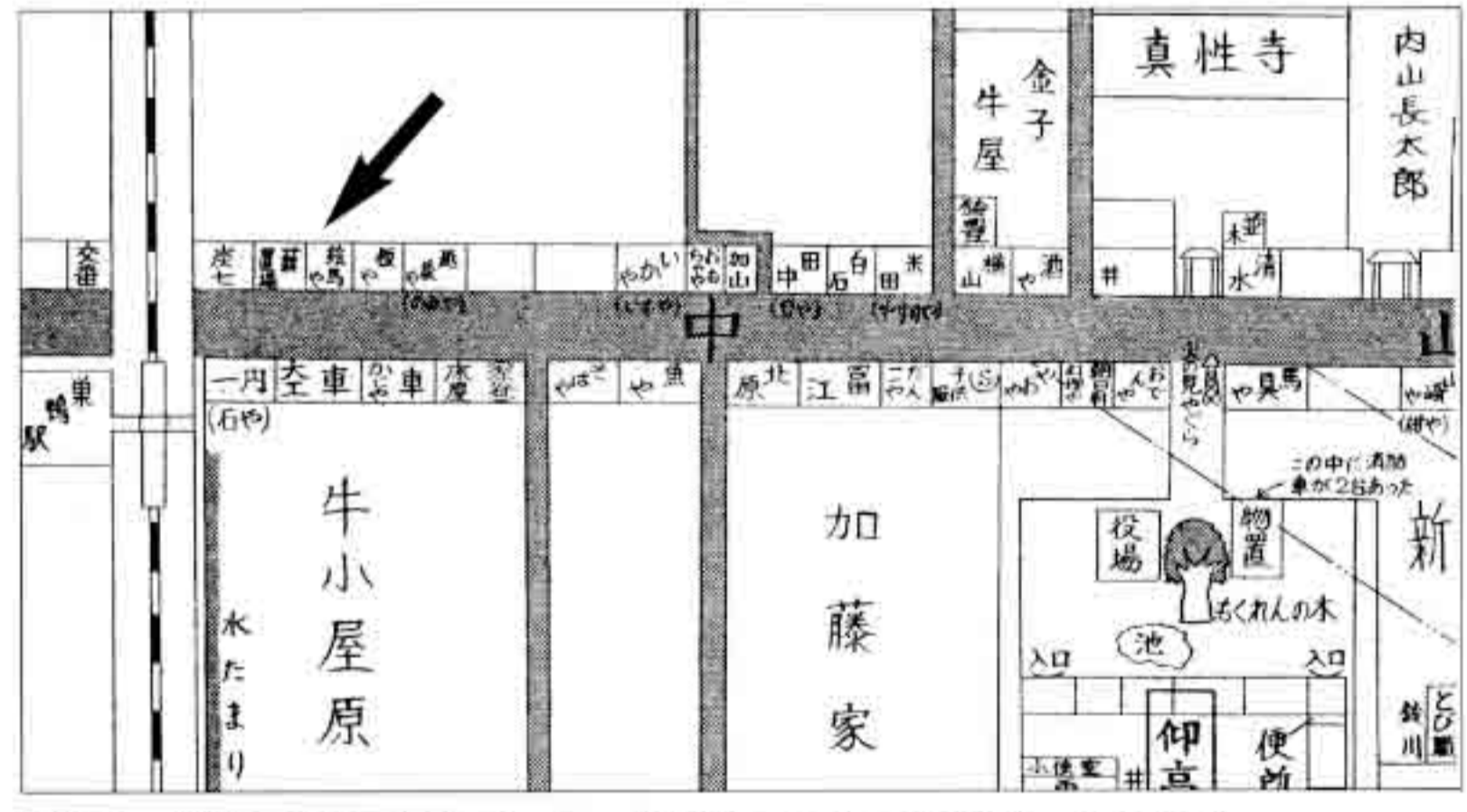
下駄屋組合奉納額 雪中、大きな松の木の下で女性（母か）が二人の女性（娘か）を懐に抱く図柄。全体的に胡粉（推定）を多用。

◆旧中山道沿いにあった江山堂◆

それでは、江山堂はどこにあったのでしょうか。ここに、明治三九年頃の町並みを思い出して書いた図があります。その中に「絵馬や」の文字がみえます。また、昭和二年の地図では、江山堂の位置が確認できます。なお、同図の特別欄には、「金文字高級看板江山堂」という広告も掲載されています。つまり、江山堂は、多くの人の往来がある旧中山道に立地し、他の商店とともに、菓鴨という特色ある



長崎町消防三番組奉納額 額の四隅の金具と中央の纏の彫刻を囲む線、文字の縁取りなどに金箔が使われている。



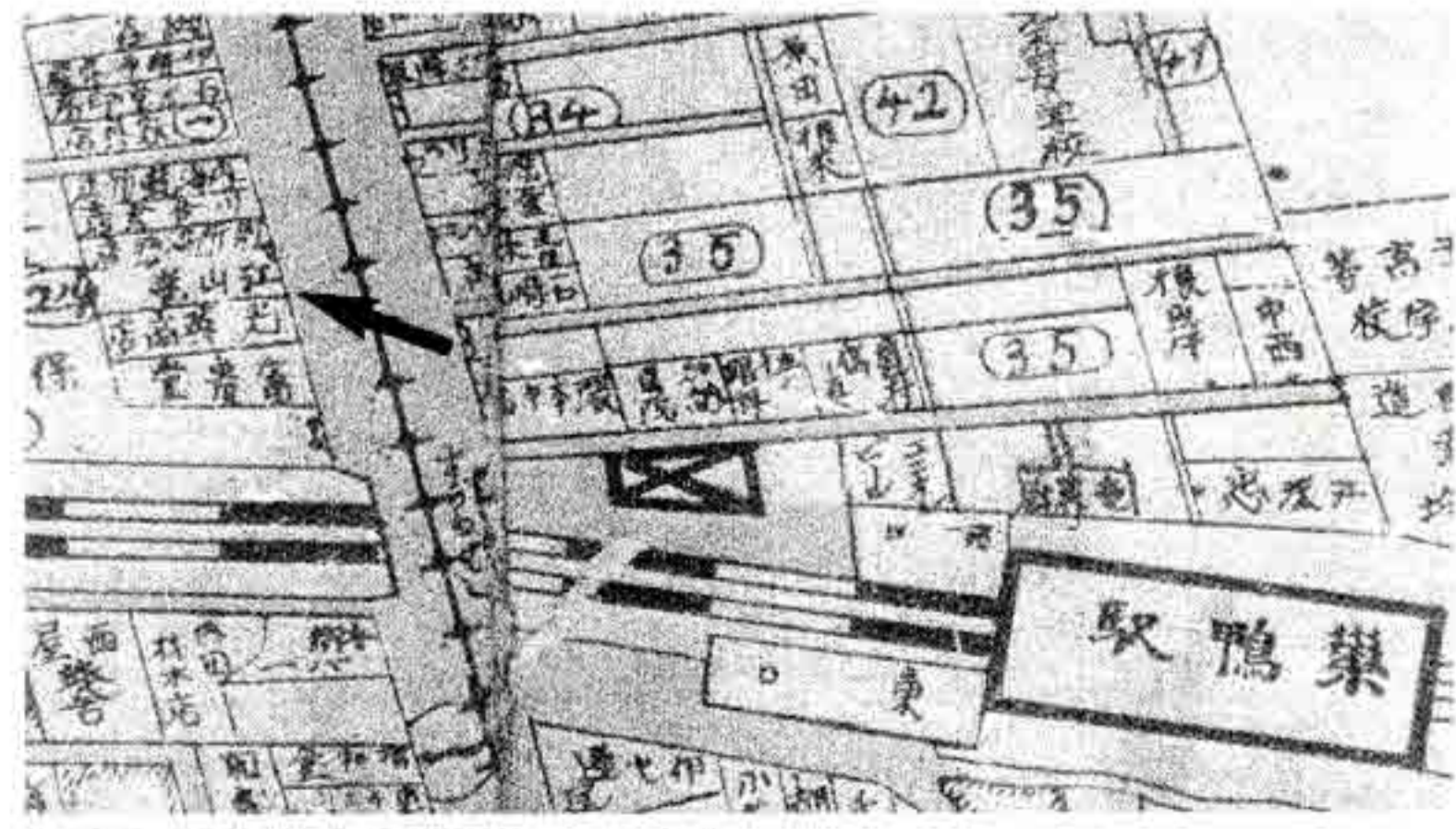
「仰高一創立90周年記念誌一」（豊島区立仰高小学校 1966年）

地域を形成していたのでしょう。
◆絵馬、そして金文字看板◆

昭和初年、菓鴨駅近くで生まれた男性は、「本当は絵馬屋さんというのでしょうけれど、子供の頃はエンマヤサンと呼んでいました。店の中でどのような仕事をしていたのかは覚えていませんが、いつ頃なくなったのでしょうかね」と話してくれました。今のところ同店の関係者を探すことができず、その歴史や職業（職人・画工）、さらに商圏については

わかっていません。

僅か二点の資料と地図から大胆に推測すれば、同店が製作するものは、世間の需要や社会的な背景により、絵馬から金文字看板に移行したのではないかと考えられます。「江山堂作」の絵馬や金文字看板がどこにあるか、各地の神社仏閣や老舗の看板等を見ていきたいと思います。なお、金文字看板は、木の板に刷毛で漆を塗り、その漆をいったん取り除き、残ったわずかな漆を糊がわりにして金箔をはるという方法で作るものです。（福岡）



菓鴨町事情明細図〔部分〕(1927年)

Q

戦後すぐに、池袋の駅前にあつたヤミ市では、どのような品物を、どれくらいの値段で売っていたのですか。
(みやこみき)

A

敗戦後、都市部の主要なターミナルに作られたヤミ市(闇市)は、粗末なバラック建てや路上にゴザを敷いただけの店で、そこでは配給制度や公定価格などを無視して、様々なルートから持ち込まれた商品が売られていました。中には、旧日本軍からの隠匿物資やアメリカ占領軍の横流し品もありました。

その頃の日本は、戦争は終わったものの、中心的な働き手が兵隊にとられたことなどによって、農村は凶作に見舞われ、原料不足や先行き不安で一般生活用品の生産も進まず、食糧・物資は極端に不足していたのです。

池袋駅東口のヤミ市を、リアルタイムで調査された星野朗氏によると、一九四七(昭和二二)年六月現在で、主な業種の店数は次のようになります。

酒を中心とする飲食店——一三三軒
食事を中心に提供する飲食店(料理

店・おでん・天ぷら・そば・中華そば・トンカツ)——一八軒

甘味店(今川焼・あんみつ・とろてん等)——一六軒

食品・食材店——二六軒
衣料・靴店——一四軒

飲食店の合計は一五七軒で圧倒的な割合を占めていることが分かります。

こうした品名をあげていくと、同じようなメニューが並んでいて、ヤミ市のイメージが湧いてこないかも知れませんが、しかし、酒といえはカストリ(糟取)とかバクダンとかいわれた粗悪な原料からつくった密造酒が主なものであり、めん類にはイモヤコンニャクの粉を混ぜこんであったり、甘味はイモから作ったものやサツカリン・ズルチンといった合成品がもっぱら使われていました。売り物のなかには、アメリカ軍放出の残飯を使ったあやしげなシチューなどもあったといわれています。

さて、売値ですが、池袋のヤミ市とは限りませんが、一九四五年一〇月の警視庁調査によるヤミ値と基準価格との比較をいくつかの商品で見ると、下の表のようになります。ヤミ値がいかに高い

ものであったかが分かります。

しかし、米など主食類でさえ、配給が遅れたり中止されたりすること

(遅配・欠配)が日常的となり、基準価格で購入できる機会はごく限られていましたから、一般の人々はヤミ市など、配給・統制以外の方法によって、商品を手に入れることを余儀なくされたのです。

参考文献
「豊島区立郷土資料館常設展図録」

「豊島区史 通史 編三」
松平誠「ヤミ市—東京池袋」(ドメス出版)

品名	白米	味噌	醤油	塩	砂糖	菜種油	牛肉	鶏卵	生鯖	煮干	甘藷	だいこん	ごぼう	りんご	煎茶
数量	1升	1貫匁	2斗	1貫匁	1貫匁	1斗	100匁	100匁	100匁	100匁	1貫匁	1貫匁	1貫匁	100匁	100匁
ヤミ値A	70円	40円	60円	40円	1000円	2000円	22円	21円	20円	23円	50円	3円	10円	13円	20円
基準価格B	53銭	2円	1円32銭	2円	3円75銭	26円80銭	3円	1円82銭	34銭	1円13銭	1円20銭	6銭	1円70銭	35銭	3円30銭
比率A/B	132.08	20	45.45	20	266.67	74.63	7.33	11.54	58.82	20.35	41.67	50	5.88	36.11	6.06

品名	握めし	鉄道パン	ふかしいも	水飴	カレー粉	清酒2級	ビール大塚	沢庵漬	冬オーバー	綿靴下	綿糸	冬ズボン下	金鶏	みのり	短靴
数量	1個	1個	100匁	1貫匁	1袋	1升	1本	1貫匁	1着	1足	1くり	1着	10本	30グラム	1足
ヤミ値A	8円	10円	10円	400円	2円	350円	20円	5円	160円	40円	22円	80円	13円	19円	530円
基準価格B	10銭	20銭	8銭	3円40銭	21銭	8円	2円85銭	2円	18円	50銭	30銭	2円20銭	35銭	60銭	42円
比率A/B	80	50	125	117.65	9.52	43.75	7.02	2.5	8.89	80	73.33	36.36	37.14	31.67	12.62

品名	短靴修理料	浴用石鹸	便箋	障子紙	ノート	たわし	歯ブラシ	リヤカータイヤ	キセル	電球	女物下駄	雨傘	安全カミソリ刀	時計硝子	靴クリーム
数量	1足半張	1個	1冊	1本2間貼	1冊	1個	1本	1本	1本	100W1個	1足	1本	1枚	1個	1個
ヤミ値A	80円	20円	4円	16円	3円	2円40銭	2円	150円	18円	20円	20円	50円	1円50銭	1円50銭	7円
基準価格B	3円50銭	10銭	17銭	2円	35銭	15銭	17銭	20円	45銭	1円18銭	3円	1円50銭	25銭	40銭	50銭
比率A/B	26.23	200	23.53	8	8.57	16	11.76	7.5	40	16.95	6.67	33.33	6	3.75	14

セピア色の記憶

第9回 エッ！これがかつての「要町通り」？

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和二五（一九五〇）年頃と現在（平成一六年五月八日）の山手通り（環状六号線）と要町通りとが交わる「要町一丁目」交差点の様子です。地図に示した*印は撮影地点を、↓は撮影方向を示しています。

当時の要町通りは、自動車や人の大きさをから考えてもおわかりのように、幅員



一〇メートルにも満たない道路でした。まだ日本に車社会が到来する前の状況のため、信号機や道路標識もなく、自動車が堂々と道の真ん中を走っています。道路沿い向って右側には、「ホリコシ」という散髪屋、屋号は不明ながら葉屋が二軒、また左側には「福田屋」というパン屋が写っています。総じて、木造平屋、もしくは二階建ての建物が軒を連ねてお



り、そのため、電柱の高さが際立って感じられます。また、はるか遠くに確認できる高い煙突は、「沢の湯」という銭湯のものであったことが判明しています。

そもそも要町通りとは、山手通り（環状六号線）との交差点から板橋区境までの幅員四〇メートル、延長一四三〇メートルの「放射三六号道路」と、池袋西口から山手通りまでの幅員二五メートル、延長六一五メートル（山手通りにかかる部分の幅員四〇メートル）の「補助七八号道路」とを合わせた呼称であり、さかのぼって、昭和四一年（一九六六）に建設省により決定された都市計画道路のこ



とを指します。沿道の商店街・住民の一部からは反対の声が上がり、また買取作業に手間取るなど、工事は大幅に遅れましたが、昭和六二年四月一二日に全面開通となりました。



営団有楽町線（池袋～銀座一丁目）開通の日（1974年10月）

この間、営団地下鉄（現東京メトロ）有楽町線が昭和五八年六月に営団（現地下鉄）成増まで延伸することにより、要町駅・千川駅が開業。また、池袋駅西口で営業を行う複数の商店会が協力して、歩道のカラー舗装を提案するなど、人と車の共存を目指す新しい街づくりが進められました。今日の要町通り沿いに展開する「まち」の原形は、この頃に完成したといえるでしょう。

なお、現在、首都高速中央環状新宿線工事により、この近辺は工事関連施設など多くの障害物に満ち溢れています。数年後とされる開通時には、今とはまた違う景観が見られるかも知れません。

郷土資料館からのお知らせ

郷土資料館年間事業予定

展 示

◇第1回企画展 7月28日～9月12日

(仮称)「えきぶくろ」

◇第2回企画展 1月26日～3月13日

(仮称)「暖かく暮らす」

*会期中展示説明会や記念講演会を予定
しています。

講 座

◇地域史講座(10回) 6月～3月

「わかる豊島区2」

◇歴史講座(3回) 10月～11月

「江戸切絵図」をあるく

刊 行 物

◇館だより「かたりべ」74号～77号

◇新着図書情報 36号～47号 月1回

◇研究紀要(付・03年度年報) 第14号

9月発刊予定 価格未定

◇調査報告書第17集 3月発刊予定

「戦地からの書簡集」 価格未定

調 査

◇豊島区園芸関係資料調査

古典籍資料調査 大阪府大阪市

◇企画展開催のための調査

整 理

◇旧田島家長屋門収蔵資料の整理作業

◇榎本家文書の整理作業

◇区内諸家寄贈資料の整理作業

◇受贈・購入図書の整理作業

臨時休館

◇資料燻蒸、閲覧室整備、および展示替

えのための全館休館

4月22日(木)～5月7日(金)

◇企画展開催準備に伴う全館休館

①7月18日(日)～7月27日(火)

②1月16日(日)～1月25日(火)

◇常設展復元作業に伴う全館休館

①9月13日(月)～9月21日(火)

②3月14日(月)～3月22日(火)

*都合により、事業内容や開催時期に変

更が生じる場合があります。各事業の

詳細につきましては、本誌や「広報と

しま」紙上でご案内いたします。



編集後記

今年度最初の発刊となる「かたりべ」74号をお届けいたします。

郷土資料館の公式ホームページ開設によって、来館者の増加が見込まれるため、資料の閲覧スペースを広げ、利用者の便宜をはかっていく作業を現在進めています。まもなく利用できるようになりますので、もうしばらくお待ちください。

年度はじめの人事異動等で、館長をはじめ資料館スタッフが大きく入れ替わりました。新旧のスタッフが協力してより良い郷土資料館にしていきたいと思っておりますので、今までと変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。(あき)

かたりべ
No.74

2004年6月1日

豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351
http://www.museum.toshima.tokyo.jp